

資料 2

第2次弥富市総合計画基本計画(案)に対するパブリックコメントの実施結果については、以下のとおりです。

案件名	第2次弥富市総合計画基本計画(案)		
募集期間	平成30年8月10日(金) ~ 平成30年9月10日(月)		
担当課	総務部 秘書企画課		
募集結果の概要	第2次弥富市総合計画基本計画(案)に対する意見を募集した結果、7人の方から71件の意見が提出されました。		
意見提出数	持参	0人	0件
	郵送	0人	0件
	ファクシミリ	1人	6件
	電子メール	6人	65件
	合計	7人	71件

提出されたご意見等と市の考え方

No.	ご意見・ご提言の概要	市の考え方
1	<p>① 2ページ 7)「発災後から・・・」の表現を「災害発生後から・・・」にしてはどうか。</p> <p>② 3ページ 「目指すべきまちの姿」欄は、「・・・まちになっています。」の表現から「・・・を目指すまち」とした方が分かり易いのではないか。以下すべて同じ表記としてはどうか。</p> <p>③ 3ページ 「市民等との協働による取組」欄の中に、自助と共助は謳っているが、公助との連携強化も入れておくべきではないか。</p> <p>④ 4ページ 「施策目標に対する市民満足度」欄は、以降のページにおいても「→」で向上を表示しているが目標数値または、「改善」と表示したほうが良いと思うがどうか。</p>	<p>① ご意見のとおり、「災害発生後から・・・」に表現を修正します。また、4ページの同じ字句も併せて修正します。</p> <p>② 「目指すべきまちの姿」欄は、表現方法を体言止めとしてではなく、文章として読んでいただきたい、この形といたしました。</p> <p>③ ご意見のとおり、公助との連携について追記します。</p> <p>④ 「施策目標に対する市民満足度」欄を数値目標とせず、めざす方向性として矢印表記としたことについては、行政は、市民満足度を100%にすることが、理想であります、現実的には難しいことから、仮に数値目標を詳細に設定したとしても、その数値目標そのものにあまり意味がないと判断したためです。</p>

<p>⑤ 7 ページ 「成果指標」欄の市内火災発生件数の目標は、現状 14 件なので、目標 13 件以下とすべきではないか。</p> <p>⑥ 10 ページ 「現状と課題」5) の記載中、「新火葬場を建設する必要があります。」の表現を「火葬場を更新する必要があります。」としたほうが良いのではないか。</p> <p>⑦ 10 ページ 「現状・課題」欄の図表が細かく読みにくい。</p> <p>⑧ 12 ページ 「現状・課題」欄の犬登録頭数及び狂犬病予防注射接種率の表の縦軸の率は、「60.00」は「60」で良いのではないか。％は代表 1 つでよいのではないか。H24 年度の表示は 1 回とし、あとは 25 で数字のみで表示すればよいのではないか。</p> <p>⑨ 20 ページ 「現状・課題」欄の 4)「・・・権利擁護の取り組み」は、意味不明である。</p> <p>⑩ 20 ページ 「現状・課題」欄の要支援・要介護認定者数の推移の表は、グラフの各項目の説明は、小さい明暗表示なのでグラフの各数値と対応が判らな</p>	<p>⑤ 市内火災件数の成果指標については、審議会においてこれを直接的な指標にあげるのには厳しいとのご意見もありましたので、成果指標を削除いたします。</p> <p>⑥ ご意見のとおり、「火葬場を更新する必要があります。」に表現を修正いたします。</p> <p>⑦ 「現状・課題」欄の図表が読みにくいのご意見ですが、本冊では、図表は、カラー印刷で分かりやすく表記します。また、現行の 2 つのグラフを削除し、左側を“1 人 1 日当たりの家庭系ごみ排出量”へ、右側を“浄化槽法第 11 条法定検査受検率”へそれぞれ修正します。なお、当該計画から、原則、見開きで施策目標の内容すべてを表現していく方針としたことからある程度細くなることもあります。ご理解をお願いします。</p> <p>⑧ ご意見のとおり、修正します。</p> <p>⑨ 高齢になれば、一人暮らしでの生活困難、判断力の低下、認知症などといった理由により、人権や権利が侵害されやすい状況になります。特に認知症などにより判断力が低下した高齢者は虐待や悪徳商法の被害などの権利侵害に遭いやすいという特性があるためです。</p> <p>⑩ 「現状・課題」欄の図表が読みにくいのご意見ですが、本冊では、カラー印刷で対応してまいりたいと考えております。なお、本計画から、</p>
---	--

	<p>い。大きく書いて欲しい。</p> <p>⑪ 24 ページ 「現状・課題」欄の主要死因別死亡者数の状況は、グラフが細かすぎる。各線図の説明があるが対応が判らない。</p> <p>⑫ 50 ページ 「農家数の推移」は、注記とグラフの対応が不明であり、大きく書いてほしい。明暗で識別より グラフの各項目に引き出し線をかいて注記したほうがまだ分かり易い。</p>	<p>原則、見開きで施策目標のすべてを表現していく方針としたことからある程度細かくなることもあります。ご理解をお願いします。</p> <p>⑪ ご意見のとおり、グラフではなく、一覧表（過去5年分の人数）に修正します。</p> <p>⑫ 「現状・課題」欄の図表が読みにくいとのことのご意見ですが、本冊では、カラー印刷で対応してまいりたいと考えております。なお、本計画から、原則、見開きで施策目標のすべてを表現していく方針としたことからある程度細かくなることもあります。ご理解をお願いします。</p>
2	<p>① 7 ページ 消防団の充実についてです。目標値では現団員数より増加しています。団員減少傾向の中にあって、素晴らしい目標と思います。具体的な施策（秘策）は実施計画の範疇になるかもしれませんが、もし、具体策を考えているのであれば加筆を望みます。</p> <p>② 10 ページ、11 ページ、12 ページ、13 ページ 本市には「環境基本計画」がありません。持続可能な開発のための教育（ESD）が進められていることは承知のところと思います。そのような時代背景を鑑み、市民の生活環境、自然環境を守り、持続可能な発展のための「環境基本計画」を定めて、もう一步踏み込んだ環境行政を打ち出していくことが望ましいと考えます。現状・課題及び主要施策と概要に加筆を望みます。</p> <p>海翔高校普通科には、環境防災コースがあります。三ツ又池の環境調査をしていた記憶があります。その取り組みとコラボして、環境啓発事業実施が加筆できないでしょうか。地元高校の存在意義を高めることにもなります。</p>	<p>① 少子・高齢社会や就業構造の変化等に伴い、本市においても消防団員確保は大きな課題となっております。本市といたしましては、記載内容は修正しませんが、現在も春まつり等の市行事での団員募集活動、広報やとみ、市ホームページ等で加入促進を行っておりますので、今後も引き続き、消防団が地域のために活躍している状況を、積極的にPRの上、加入促進を推進いたします。</p> <p>② 環境基本計画については、ご意見のとおり、追記いたします。海翔高校との連携について、本基本計画において、環境対策の推進をしていくなかで、様々な主要施策事業がありますが、いただいたご意見につきまして、今後具体的な取組を検討する際に参考とさせていただきます。</p>

<p>③ 40 ページ、41 ページ 「生涯学習推進計画」策定がこの度書き込まれたことは喜ばしく思います。現状・課題1)で、「生涯学習推進計画」策定へのいきさつが読み取れます。人生 100 年時代を見据えて自分の人生をデザインして、生涯にわたって学び続けていくことを支援するためにも「生涯学習推進計画」が必要となってきます。それに伴い、自己の生き方を考えキャリアアップを刺激するような講座の開設も必要になってきます。そのあたりの踏み込んだ方針や施策などの加筆を望みます。</p> <p>④ 50 ページ、51 ページ 日本の農産物自給率は減少の傾向にあります。そうした中、一部農業者は I O T への取り組みを行っていて、そのことを踏まえて書き込まれています。しかし、さらに A I などの科学技術やバイオテクノロジー導入のために国のパイロット的な事業を誘致して、夢のある農業を目指して取り組むことを加筆していただければと望みます。現在取り組んでいる「多面的機能支払交付金事業」は、農業環境の整備に有効的で、農業者、市民、企業が協働で活動してグラウンドワーク的に環境保全ができる事業であると考えています。また、「エコミュージアム」という、ある一定の地域において、住民の参加によって、その地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、総体として持続的な（持続可能な）方法で研究・保存・展示・活用していくという考え方があります。これらは、「農」空間のプラスイメージを高めることができます。そのあたりを加筆されることを望みます。</p> <p>⑤ 56 ページ、57 ページ 観光協会についてです。観光の活性化は魅力あるまちづくり、税收拡大のためにも大事な取り組みです。そのためには、クリエイティブな職業経験のある方を事務局長として公募して、観光協会を行政から独立させ、民間センスを発揮していただく手法を提案します。「カントリー</p>	<p>③ 市民の皆様の手によって生涯学習計画づくりに取り組むことこそが、市民の皆様自ら主体的に学ぶことにつながると考えています。市民の皆様の参画に基づく計画づくりの過程においてキャリアアップを刺激する魅力的な講座の開設を計画していきたいと考え、具体的な施策は実施計画に盛り込んでいきます。</p> <p>④ A I やバイオテクノロジー技術については、未確立な分野ですが、本市としては、研究の進歩に注視していきます。また、多面的機能支払交付金事業は、農業・農村の有する自然環境の保全、良好な景観の形成等の多面的な機能の維持・発揮を図るため、農業者と農業者以外の団体が行う活動に対して支援する事業とされておりますので、地域の活動組織の積極的な活動により農村環境が維持されるよう、この事業の継続に努めてまいります。</p> <p>⑤ 観光協会については、民間人の加入等の検討を進めているところです。農業と観光の連携、施設を活用した取組に関しては、今後の参考とさせていただきます。</p>
--	---

<p>ウォーク」、「農作業体験」（田植え・稲刈り、トマト収穫、イチジク収穫、花摘みなど）を積極的に行います。十四山福祉センターやいこいの里の風呂などを有料で観光客や訪問者にも開放し、農産物販売や農作物加工品づくりコーナーなどを開設するようにします。施設の収益が上がる有効活用です。三ツ又池公園ではカヌー体験なども企画できます。そのようなことを検討して、加筆されることを望みます。</p> <p>⑥ 78 ページ、79 ページ 基本構想 34 ページで示しているように、財政の見通しは極めて厳しいです。長期的に見ると、厳しさはさらに続きます。人口が減り税収も減るにもかかわらず、公共施設の維持理費は減ることはありません。それを解決するために、「公共施設マネジメント」の推進事業は極めて重要と考えます。そのような現状を行政が一方的に説明するという手法では、説明する行政と要望する市民のままの構造になってしまいます。ワークショップ型の対話で、市民の理解を取り付ける踏み込んだ取り組みが大切かと思えます。そのあたりの具体的な施策があるようでしたら、加筆していただきたいです。</p> <p>⑦ 78 ページ、79 ページ 「中期財政計画」は、市のホームページを見るとわかりますが、まだ見ている人は少数と思います。「広報やとみ」で連載したり、出前講座などを積極的に周知していくことへの言及加筆を望みます。</p> <p>⑧ 計画全般 基本計画の現状・課題のところに、裏付けとなるデータを掲げています。棒グラフや折れ線グラフの方が変化が分かりやすいです。表になっているデータで棒グラフや折れ線グラフに直せるものは直していただきたいと思えます。</p> <p>⑨ 計画全般 市民と行政の協働ということを含めて以上に明確に打ち出し、まちづくりのための提言を市民ワークショップで行い、愛知大学の政策提案</p>	<p>⑥ 79 ページの「市民等との協働による取組」の本文中に、「・・・協働のまちづくりに積極的に参加してもらえらるための環境を整備します。」と記載しており、計画は現行どおりとしますが、現在策定中の公共施設再配置計画においてワークショップの開催を検討しています。</p> <p>⑦ 基本計画 92 ページの施策目標 7「情報の共有」の記載は、現行どおりとしますが、広報やとみ、市ホームページ等にて財政状況の「見える化」を積極的に図ってまいります。</p> <p>⑧ 説明する内容（数値）によっては、表の方が分かりやすい場合もありますので、再度点検し、可能な限り棒グラフや折れ線グラフに修正します。</p> <p>⑨ 本計画の策定にあたっては、市民アンケートや中学生アンケート（市民ニーズの動向）、市民ワークショップ、愛知大学法学部による政策提言</p>
--	--

<p>もいただきました。とっても良いことと思います。その中には実現可能な提案や提言があります。それらが各課の基本計画の中に書き込まれていません。ぜひ書き込んでください。そうした姿勢がないと、市民ワークショップなどを実施したことの自己否定になりかねないと懸念します。そのあたりを丁寧に取り組むことで、実施段階への市民参画につながっていきます。それが真の市民と行政の協働と考えます。</p> <p>⑩ 計画全般 基本計画の計画ごとに「目指すべきまちの姿」(ゴール)と「市民等との協働による取組」が書かれていることはとっても良いと思います。そのことを実施していくためには、行政は常に市民に呼び掛け、市民は行政に前向きな提案していくことをいとわれないことが求められます。そうした中で、策定後も各課は、随時市民とともにワークショップをしながら、協働のまちづくりを推進していくことが重要と考えています。そのうえで、ソフト事業は市民に委託して、行政の負担を軽減するとともに、市民の当事者意識(市民自治)を高めていくことが必要と考えます。</p> <p>⑪ 計画全般 千葉大学の倉坂秀史氏は、国の支援を得ながら研究した「地域ストックマネジメント研究」(O P o S S u M)において、全市町村の「未来カルテ」を作成しています。社会保障・人口問題研究所の人口予測をベースとして、現在の傾向が継続した場合に、2040年に、産業、保育、教育、医療、介護がどのような状況になるのかをシミュレーションしたものです。ホームページから弥富市の未来カルテも入手できます。一見の価値はあります。</p>	<p>(市民協働の取組)を実施し、市民の皆様等から多くのご意見・ご提案をいただいております。基本計画に示す取組の検討に活用させていただきました。なお、このご意見・ご提案ごとに施策・事業が個別対応しているものではございませんので、ご理解をお願いします。</p> <p>⑩ 第2次総合計画基本計画は、市民等との協働を重点テーマとして策定しています。市民に向けての一方的な行政運営にならないためにも、まちづくり出前講座やワークショップの手法等を活用して行政と市民等との双方向での理解促進を図ります。例えば、毎年11月に行われる三ツ又池で開催される芝桜の植樹に関しましては、多くの市民ボランティアの皆様参加により実施して効果を上げています。</p> <p>⑪ ご紹介いただきましたホームページを確認し、参考とさせていただきます。</p>
---	--

<p>3</p>	<p>① 3 ページ (2) 災害時の情報伝達の充実 全世帯の防災・安全メールの登録を早急に目指すこと。家族で最低1人は受信できるようにする。あらゆる方策を駆使して登録を促進すること、学校で児童生徒を通しての呼びかけや、災害訓練や各種講演会の時にその場で登録してもらうなど。地区防災会に対して登録率を上げるように促し、各地区の防災訓練等に取り入れてもらうこと。</p> <p>② 3 ページ (3) 自主防災組織の活動支援 自主防災組織の活動実態等について実態調査(アンケート調査)を行い、実態にあわせて実効性のある支援と設立指導を行うこと。調査結果に基づき、自治防災組織の活動支援をするための中間支援組織として「弥富市市民防災活動協議会」を結成し、活動拠点を市役所の中に置くこと。</p> <p>(協議会方式の利点) 市民、各種団体の様々な立場からの知恵、実践、相互協力が、縦割り行政では突破できない自助共助の向上への近道です。拠点を用意し市役所も参加する活動協議会であればらだった活動を組織化し、活動協議会の活動の運用ルールを定めることにより、自由闊達な意見交換と実践的な調査と情報発信を実施する。既にいくつかの自主防災会が試行錯誤を繰り返し実績もあります。今後より多く自主防災会や小学校単位の連合会、企業、各種団体の活動を充実させるのには、お互いの困りごと相談の場をつくり、協力のきっかけとなる互助組織として活動協議会と拠点(センター)が大切になります。市民や自主防災会等に対する情報発信や研修等について、市からの助成金の受け皿となります。各種公益財団からの助成金で普及啓発におけるパンフレットやシンポジウム等の開催が可能ですが、これは単独の防災会では困難で、行政は助成金の受け皿になれません。</p>	<p>① 安全・防災メールについて、様々なご意見をいただきました。本市といたしましても、一人でも多くの方に登録をしていただきたいと考えております。現在も、地域の防災イベントでの登録促進や公共施設、駅、医療機関等での登録要領の配布、掲示なども行っており、あらゆる機会を通じ、普及啓発を行ってまいります。</p> <p>② 自主防災組織の活動支援として、市民防災活動協議会の結成のご提案をいただきました。今後の参考とさせていただきます。</p>
----------	---	--

<p>③ 3ページ (4) 防災用拠点の整備 市庁舎だけでなく、すべての公共施設に防災機能の向上を図る計画を立てること。今後公共施設の再配置を検討するにあたって、農村多目的センターなどの既存施設や小学校の空き教室などを防災コミュニティセンターに機能変換すること。</p> <p>④ 3ページ (5) 市街地排水路の維持整備 排水路の流下能力の調査とシミュレーションを行い、ハザードマップとして早急に市民に公表すること。事業費が膨大なため事前の排水対策が困難であるが、ボトルネックを調査し、湛水の深さや範囲を知らせて、住民の防災活動に役立たせ、被害を軽減させる。面的な検討によって湛水の未然防止は不可能でも、ボトルネックを優先的に整備することにより、湛水後の排水期間の短縮を図ることは、大きな効果がある。</p> <p>⑤ 4ページ (12) 業務継続体制の整備 弥富市では様々な防災対策に取り組み、この総合計画の中でも最もよく書かれていると思います。これを、さらに進めるには、総合計画にも書いてあるように市民や関係機関、企業等の主体的な参加によるものが大きく、それを共有するのが地域防災計画だと思います。神奈川県茅ヶ崎市の地域防災計画を参考にして、業務継続計画と地域防災計画を分離し抜本的に再構成すること。 大きな違いは、行政と市民・企業・関係機関等との役割分担を明確にし、各機関が主体的に行動できること。そのために、東京大学の加藤教授など有識者の支援を受け、防災会議の下に、関係機関や市民企業等の参画する「作業部会」を設</p>	<p>③ 防災用拠点の整備について、ご意見をいただきました。記載内容は現行どおりとしますが、ご意見のとおり、各施設の防災機能を向上させることは、本市といたしましても重要な課題だと考えておりますので、引き続きできることから進めてまいります。 また、平成 30・31 年度に公共施設再配置計画を策定し、具体的な施設の再編等が決まります。ご意見のとおり転用や廃止となった施設の活用方法につきましては、また、改めて市民の皆様のご意見をお聴きすることとさせていただきます。</p> <p>④ 市街地の浸水被害の多い地区において、平成 29 年度、流下能力等の調査を実施し、対策の検討を行い、一部の対策については平成 29、30 年度に実施しました。今後も、浸水被害を軽減するための実施可能な対策を検討、実施していきます。</p> <p>⑤ 業務継続体制の整備については、業務継続計画を策定中ですので、参考とさせていただきます。なお、業務継続計画につきましては、完成後、市ホームページ等に掲載いたします。後日、改めてご覧いただきたいと思います。</p>
---	--

<p>置しワークショップなどを行い策定すること。</p> <p>⑥ 7 ページ (3) 常備消防・救急体制の充実 海部南部消防組合はよくやっていると思いますが、今後の大規模災害等も想定して海部地区全体で消防組合を構成(合併)すること。尾張全体でもいいと思います。政令指定都市など規模が大きい常備消防では、火災等に多くの機材と人員が参集して運営する初動体制が出来上がっています。より多くの資源を投入するのは決して無駄ではなく、被害の拡大を防ぐだけでなく、職員と組織にとって実践の訓練を重ねる意味でむしろ効果的。合併により、相互応援の費用負担も解消する。</p> <p>⑦ 11 ページ 環境衛生の充実 大規模災害時における廃棄物処理計画を策定し、事前に市民や企業に周知し訓練すること。</p> <p>⑧ 12 ページ (5) 新火葬場の建設 大規模災害時における遺体処理計画を策定し、事前に市民や企業に周知し訓練すること。</p> <p>⑨ 13 ページ (3) 環境汚染対策の推進 水害や津波発生時、工場や事業所から、避難する人体に危険な汚染物質が流出することが想定されます。市内における、危険な化学物質の保存状態を調査し、災害時における流出防止の対策の計画を策定し、指導すること。商工観光課や農政課と連携し、企業のBCPとして指導する。それが結局、企業にとってもメリットがある。</p> <p>⑩ 35 ページ 基本目標3 心豊かで文化を育む人づくりのまち全体を通して 「基本目標3教育文化スポーツ」は弥富町・十四山村が、行政の中心課題として重点的に取り組んできた分野であ</p>	<p>⑥ 常備消防・救急体制の充実についてご意見をいただきましたが、そもそも総合計画において、一部事務組合の構成自体を提起していく性質のものではないと考えています。ご理解をお願いします。</p> <p>⑦ 災害廃棄物の処理については、海部地区環境事務組合及び構成する市町村とともに、実効性のある処理体制の構築に取り組み、計画策定時には、市民の皆様等への周知を図ります。</p> <p>⑧ 遺体処理業務については、弥富市地域防災計画に示してあります。この計画を基に、いただいた情報を参考にしながら、愛知県、他市町村、企業等と連携を図り、体制を整えていきます。</p> <p>⑨ 環境汚染問題は、災害時だけでなく、地球規模の環境問題であるということを企業にも認識してもらい、有事が起きた際に対応ができるよう、いただいたご意見を参考にし、環境汚染の対策に努めてまいります。</p> <p>⑩ 生涯学習の主役はもちろん市民の皆様です。市民の皆様が、身近な施設で自発的で創造的で自由な学習ができる環境を整えることが大切だと認識しています。マネジメント</p>
---	--

<p>り、長年の努力の結果、人口規模に比して文化スポーツ施設も多く、市民の文化スポーツ活動も盛んだと思います。生涯学習分野は、細かい事業が歴史的に積み上がっていて、しかもそれぞれかなり手間のかかる事業であり、現場の職員はよくやっていると感謝しています。予算人員が減らされ、既に限界にきているような気がします。特に基本目標 3 教育文化スポーツは箱物依存が顕著であり、既存の箱物ありきでいかに利用するかという低いレベルにとどまっていたはなりません。「心豊かで文化を育む人づくりのまち」のコンセプトをしっかりと捉え直すことが重要です。ハコモノは手段であり、そもそも何が課題でそれを誰がどう解決するかと言う手段です。それを実現する場としての箱に発想の転換が求められています。そもそも生涯学習の担い手の主役は市民です。役所は限界を超えていることをはっきり伝えて、大胆にあり方を見直す時期が来ている。</p> <p>⑪ 41 ページ (1) 生涯学習に関する指針の策定・推進 生涯学習の根本理念に立ち返って、まちづくりとの関連を市民参加でよく検討し戦略的体系的な指針を策定すること。学びが単なる自己満足に終わらず、周りの人、街の人との相互関係によって、ひとの生涯が充実していくことを注視する必要があります。つまり、人づくりをすることによりまちづくり、まちづくりをすることにより人づくり、と言う両輪あるいは表裏の関係を重視すべきです。具体的には従来から活動している団体だけでなく、これからライフステージの様々な場面で活動していこうとしている市民の方をまきこんで、「人づくりはまちづくり、まちづくりは人づくりのシステムとしての生涯学習」として指針を再構築することが望まれます。</p> <p>弥富市においても生涯学習では単なる箱を利用することではなく、市民が自らと将来の市民のために、主体性を持った市民として、まちと文化を継承し</p>	<p>の観点からすると今後施設の統廃合について検討が必要になってきます。市民の皆様と協働で生涯学習を推進していきたいと考えています。</p> <p>⑪ 目指すべきまちの姿はご意見のとおり、学びの成果がまちづくりに生かされるようになることです。弥富らしさとは、地域の課題とは何か等問題意識をもつことからまちづくりについて主体的に考えていただけるよう、生涯学習計画策定の過程、進め方において参考にさせていただきます。</p>
---	--

<p>実践し将来に引き継いでいく、ある意味人間本来の根源的な欲求を「学習」というかたちに昇華させたものでなければならぬと思います。</p> <p>⑫ 41 ページ (2) 生涯学習講座・教室の充実 様々な形でまちづくりに関わっていただくとする市民や意欲が高い行政職員のための図書館として、図書館の参考郷土資料室の「弥富市のまちづくりの資料コーナー」を充実させること。弥富市役所その他公共機関で作成した行政計画調査資料等が閲覧し活用できるようにすること。この地域の各種団体や企業等の報告書等の寄贈を受け、地域について一覧できるように資料の収集を図ること</p> <p>⑬ 43 ページ (1) スポーツ推進計画の策定・推進 生涯における運動機能の維持や、認知症対策などスポーツの意義を広く捉えて、福祉等も含めた生涯学習と連続性を持った体系的な推進計画とすること。</p> <p>⑭ 43 ページ (2) スポーツ施設の整備・充実 今後のスポーツ施設の整備にあたって、高齢者の健康づくりや認知症予防等も含めた総合的な施策を考慮して検討すること。</p> <p>⑮ 44 ページ 芸術文化の振興 現状・課題認識の考察が既存の箱ありきになっている。弥富市全体の「心豊かで文化を育む人づくりのまち」としての歴史民俗資料館の役割を総合的に再構築すること。歴史民俗資料館が孤立した施設ではなく、図書館や「地域活動団体等の活動拠点等の整備」との連携、生涯学習課の施策と連携してどのようにあり方自体を検討すること。移転の必要性について目的と機能を精査したうえで、「歴史民俗資料館」という名称も含めてあり方を再検討する。現</p>	<p>⑫ 資料収集基準に基づき、行政資料については他部局との連携を密にし、収集に努めます。また、現在の住民生活に密着した有用な資料についても積極的に寄贈を働きかけます。ご提案にあります図書館の参考郷土資料室「弥富市のまちづくりの資料コーナー」については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>⑬ 本計画は「スポーツ基本法」に基づき、本市における「スポーツ」を幅広くとらえ、競技種目だけにとどまらず、散歩・ジョギング・レクリエーション・子どもの遊びなど体を動かすすべての運動を含み、施策を体系化し、目指す方向や取組みを具体的に示すものにしたいと考えています。</p> <p>⑭ 高齢者の方の生きがいと健康づくりを促進するため、ライフステージに応じ、運動・スポーツができる環境づくりを進めるなど多方面から支援施策を検討したいと考えています。</p> <p>⑮ 現在、郷土の歴史・文化財や文化人について生涯学習講座に組み入れています。今後も連携して実施していきます。移転の必要性については、現在の資料館の老朽化（昭和46年建築）があり、今後、耐震化、エレベーターリニューアル、屋上防水等、修繕に多額の経費を要します。移転により図書館との情報及び資料の共有を図り、利用者への提供を行うことができ、利用者の利便性が向上すると考えています。</p>
---	---

<p>在の資料を移すだけならば、予約制にして案内付きで見てもらったほうが効果的。小学校の見学も同様。</p> <p>新庁舎建設後の図書館棟の1階については、現在の資料館の展示を移すのではなく、市の課題である災害や今後のまちづくり、弥富の魅力づくり、観光、住民参加を含めた、まちづくりセンター的、総合的なまちづくりの拠点となるようなことが必要。その土台として、まちづくりの資料館としての機能を埋め込んでいくことを、市民参加で検討すること。歴史民俗資料館には優秀な学芸員が2名配置されているので、専門性を高めつつ市民目線の発信を高めるために、ネットワークの中で歴史民俗資料館の役割分担を考えていく必要がある、海部郡や愛知県全体で学芸員の人事交流（市町村間異動）を行うこと。</p> <p>⑩ 50 ページ 農水産業の振興 湛水等の大規模災害に備えて、産業向けのハザードマップや、復旧復興に関する計画を策定すること。 ・市民農園事業を充実すること。 ・新規就農の支援を充実すること。</p> <p>⑪ 54 ページ 商工業の振興 大規模災害では、湛水などにより、すぐには調達できないような産業用機材等が大きな被害を受けています。今後の災害に向けて、事業者のBCP策定を支援すること。災害時における危険な化学物質等の流出の防止のための調査や指針を策定すること。</p> <p>⑫ 56 ページ 観光の振興 現状課題に、行政の観光振興は長期的な視点で、市民がまちに誇りを持つために、地域資源を光り輝かせる観光の究極の目的を書き込むこと。</p>	<p>また、複合施設の利点として、入館者の増加が期待できると考えています。展示については、単に展示を移すだけではなく、観光など市外からの集客を視野に、限られたスペースを有効に使います。他の自治体との人事交流については、地域の歴史文化の専門性の面から難しいと考えています。</p> <p>⑬ 生産緑地との兼ね合いや、法整備等の調整が必要なため、近隣自治体の状況を参考に整備を検討します。新規就農について、県普及課やJAなど関連団体と情報共有を強化し、就農支援及び経営・技術支援を行ってまいります。</p> <p>⑭ 事業者のBCP策定の支援に関しては、国が指針やガイドライン、愛知県は策定マニュアルを示しています。本市では、BCPセミナーの案内を行っているところです。また、環境汚染問題は、災害時だけでなく、地球規模の環境問題であるということを企業にも認識してもらい、有事が起きた際に対応ができるよう、いただいたご意見を参考にし、他の問題解決の促進に努めていきます</p> <p>⑮ 地域資源の活用は観光振興に重要であると考えています。市民の地域への誇りや愛着を持ってもらえるよう取組を進めていきたいと考えています。</p>
--	---

<p>⑱ 58 ページ 雇用対策・勤労者福祉・消費者保護の充実 様々な働き方が言われる中で、女性・高齢者・障害者・若者を含め起業をサポートする取り組みを検討すること。</p> <p>⑳ 62 ページ 上下水道の充実 災害時における復旧復興の計画を策定すること。</p> <p>㉑ 66 ページ 治水対策の充実 木曾川の堤防のうち、国道 1 号線尾張大橋から越流した場合に、洗堀等による破堤の懸念があります。越流しても破堤しないような調査検討を行う必要があります。複数の管理者にまたがるので、弥富市で基礎的な調査と関係者の調整を行うこと。越流水が 1 号線を通して市街地に流れこまないように、筏川や木曾川用水に流れ込むような対策を緊急に検討すること。</p> <p>㉒ 69 ページ (2) 市街地の計画的整備 駅前地区は、防災上最も弱点となっている場所でもあり、避難タワーも含め防災機能の充実を検討すること。</p> <p>㉓ 69 ページ (3) 市街地緑地の保全 指定からは 30 年を迎える生産緑地の今後について、市民農園化など総合的な計画を検討すること。</p> <p>㉔ 78 ページ 持続的な行財政運営 意欲的な職員の提案が生かされていません。人材育成も重要ですが、職員の従来の組織を超えた提案をコンペで吸い上げることを制度化すること。</p>	<p>⑱ 起業に関する取組については、施策目標 2 の「商工業の振興」において、商工会との連携による取組として記載しています。</p> <p>⑳ 上水道は、海部南部水道企業団において、地震防災対策マニュアル、水道事業地震防災計画が策定されており、この計画をもとに復旧復興に努めます。下水道は、復旧復興の計画策定について、「下水道事業 業務継続計画（下水道 B C P）」を策定済みです。（制定 平成 27 年 4 月、改定 平成 30 年 4 月）</p> <p>㉑ 河川管理者である国に対して、越流対策や破堤防止の調査検討を要望しております。また、尾張大橋の架け替えについても、併せて国へ要望しております。</p> <p>㉒ 今後、駅周辺において新市街地等を整備する際は、防災機能も検討する必要があると考えています。現在、鉄道事業者と進めております自由通路整備については、緊急時避難場所としての指定を検討していきます</p> <p>㉓ 当市の当初生産緑地指定は平成 22（2010）年であり、指定期限を迎えるのは 2040 年であるため、今後、指定期限が終了する時期までには検討いたします。</p> <p>㉔ 本市では、平成 26 年度から「職員提案制度」を、平成 29 年度からは「業務改善運動（G-1 グランプリ）」を実施し、市民サービスの向上や事務の効率化、人材育成につなげていることから「主要施策と概要」欄に追記いたします。</p>
--	---

	<p>②⑤ 83 ページ (3) 地域活動団体等の活動拠点等の整備 新市庁舎のロビーを活用する程度でなく、図書館棟 1 階もしくは社会教育センター全体を利用するなど、全庁的な取り組みが必要。策定にあたり、市民参加で行うこと。</p>	<p>②⑤ 「主要施策と概要」欄に記載している「地域活動団体の交流及び活動の拠点となるスペース」につきましては、新庁舎以外の場所に利用できる専用スペースの確保を検討しています。</p>
4	<p>① 全体について 各施策目標において、「市民等との協働における取組」を考えているのが素晴らしい。施策によっては、漠然とした内容のものもあるので、より具体的な内容となると良い。</p> <p>② 3 ページ 弥富市では、市民参加の防災ワークショップを行っている。折角行っている取組なので、計画内に盛り込まれると良い。</p> <p>③ 92 ページ 「現状・課題」の 5) で、メールマガジンを利用して、若い世代に向けて市政情報を発信してはどうか。(イベントやお役立ち情報など広報よりキャッチーな内容で)</p> <p>④ 82 ページ、83 ページ 基本構想 26 ページにおいて、「人権・協働・行財政」は、第 1 次総合計画で低達成度との評価だったにも関わらず、第 2 次総合計画でも具体的な計画がない。総合計画を作成して終わりではなく、ここから先 10 年間、継続的に市民と一緒に、計画を実施していくのを示されたい。(担当課ごとにワークショップをする。年に 1 度進捗</p>	<p>① 市民等との協働による取組の記載につきましては、主要事業に具体的に掲げた事業を推進していくことで取り組んでまいります。</p> <p>② ご意見のとおり、平成 28 年度は津波避難計画について、平成 29 年度につきましては要配慮者支援について、各地域でワークショップを実施してまいりました。ワークショップを開催することで、地域の皆様と顔の見える関係づくりを進めることは、非常に効果的だと考えています。 本市といたしましては、テーマとする内容に応じて、最善と思われる手法を採ってまいります。従いまして、記載内容は現行どおりとしますが、今後とも積極的な防災啓発に努めてまいります。</p> <p>③ 行政は、幅広く多くの人々に情報発信することが求められているため、今後は、これまで市の発信する情報にあまり関心のなかった若者にも情報が届けられるよう、メールマガジンのような新しい広報媒体の活用について、検討してまいります。</p> <p>④ この第 2 次総合計画では、「人権・協働・行財政」を始めとする 6 つの基本目標すべてが、第 1 次総合計画の施策評価結果を上回るよう、原則、主要施策ごとに成果指標を 1 つ以上設定し、第 1 次総合計画より実効性のある計画としました。その成果を検証するため、総合計画基本構想 41 ページ第 4 章に記載されているとおり、毎年度、担当部局による</p>

	<p>状況を市民と確認するなど。)</p> <p>⑤ 36 ページ～38 ページ及び 32 ページ、33 ページ 福祉実践教室や中学生のボランティア体験、海翔高校福祉科の市内事業所での実習など、福祉教育に関わる、既に行っている取組を盛り込まれると良い。</p> <p>⑥ 40 ページ 「現状・課題」の 2) で教室の多くは、平日昼間に開催されている。もっと多様な世代が参加できる時間帯、参加したい内容を企画されたい。教室参加者を通じて市政を身近に感じてもらえるような働きかけをされたい。</p>	<p>総合計画の評価だけではなく、市民や有識者などによる外部からの評価も併せて総合的に実施することとしております。</p> <p>⑤ 福祉課関係のボランティアの取組については、28 ページの障がい者支援の充実に記載します。その他は、基本計画への反映ではなく、今後、実施計画の中で検討いたします。</p> <p>⑥ 夜間や土・日曜日の事業を充実させるよう検討します。</p>
5	<p>① 4 ページ 安全防災メールの登録者数の目標値が低いのではないのでしょうか？ 現状値がスマホや携帯電話の普及率に対して非常に低いため、もっと高い数値を目指すことも可能かと。現在の地味な広報活動だけでは増やすことはなかなか困難かと思われるが、自治会や民間のボランティア団体との協働でメールの登録講習などを防災訓練などの際に行えばもっと増やせそうな気がします。現在の拡声器による広報は室内にいたりすると聞き取りにくいなどの意見を良く聞くので、個人個人に直接届くメールの活用をもっともっと推進すべきかと思えます。</p>	<p>① 安全・防災メールについて、様々なご意見をいただきました。本市といたしましても、一人でも多くの方に登録をしていただきたいと思いますと考えております。現在も、地域の防災イベントでの登録促進や公共施設、駅、医療機関等での登録要領の配布、掲示なども行っており、あらゆる機会を通じ、普及啓発を行ってまいります。</p>
6	<p>① (意見 1) 厳しい財政見通しの速やかな情報共有(行政、市民、議会への見える化)を求める。 基本構想 34 ページの 10 年間の財政見通しによると、今後 10 年間で単年度赤字額の急激な増加傾向がみられる。単年度赤字が約 79 億円から約 132 億円の 1.6 倍にもなるにも関わらず、具体的な財政改善策が計画のどこにも見受けられない。財政状況の悪化傾向に非常に強い危機感を覚える。基本計画 78 ページ</p>	<p>① ご意見のとおり、本市は、これまで以上に厳しい財政状況が続きます。従いまして、基本計画 80 ページに記載してあります施策目標 1「持続的な行財政運営」の主要施策を積極的に推進してまいります。また、基本計画 92 ページの施策目標 7「情報の共有」の記載は、現行どおりにしますが、広報やとみ、市ホームページ等にて財政状況の「見える化」を積極的に図ってまいります。</p>

<p>ジの持続的な行財政運営の今後の具体策の推進に期待している。その意味で、基本計画 92 ページの情報の共有については、広報的な良いことだけを発信強化するのではなく、行政で発生している問題・課題、難しいこともわかりやすく伝え、市民と一緒に問題解決を図っていく姿勢があるとよいと思う。</p> <p>② (意見 2) 基本計画 36 ページ学校教育の充実にあたって、学区割の抜本的改革を求める。 弥富市の人口密度は市街化区域と市街化調整区域でのエリア格差が非常に大きいと認識している。児童数においても、市街化調整区域の各小学校は過疎化が進み学年 1 クラス編成が当たり前となっている。36 ページ 課題の 2) にあるように、校舎の老朽化対策も急がれる。そこで、全市の学区割を抜本的に見直し、速やかに統廃合を進めていくのが賢明と意見する。過疎学区を懸念する理由は、管理運営上の問題のみならず、学年 1 クラス制での運営の場合、年度でのクラス替えがないため、仮に同じクラスで児童同士での人間関係に問題が発生しても常に同じクラスでは逃げ場がなく、中学に進学、あるいは高校に進学するまで人間関係が固定化される恐れを抱いている。より多くの人間関係、多様性のある学校運営を行うことで、社会の縮図を肌で学ぶことが重要と考える。(※少人数学校では、一人ひとりへのきめ細やかな教育フォローができるなど、メリットもあることの理解はしている)</p> <p>③ (意見 3) 計画 45 ページ 歴史民俗資料館の有効活用に期待する。 最近、ぶんちゃん職員、SNS の活用など、よい取り組みが始まって注目を浴びつつあるのは素晴らしい広報活動と思う。旧態依然とした堅苦しい資料館ではなく、弥富市民には憩いの場、市外の方々には、ここにくれば弥富のいろいろな魅力が伝わるような、楽しめるミュージアム化を進めていただきたい。歴史民族資料館という呼び名も、</p>	<p>② 現在、弥富市全体の公共施設再配置計画や長寿命化計画を策定していますので、その中で併せて検討してまいります。</p> <p>③ 歴史民俗資料館につきましては、保健センター移転後の空きスペースへの移転を予定しております。それを契機に、ネーミングについても検討し、常設展示については見直しを行います。時代に合った展示とするため、産業観光を含む観光面の情報発信を展示に取り入れる予定です。また、広報やとみ、市ホームページ、CATV、コミュニティ FM 放送のほか SNS を利用した情報発信も引</p>
--	--

<p>もっと親しみやすいネーミングに改変するか、市内の企業のネーミングライツを採用するか、市民にネーミングを募集するなどあってもよい。さらに有効活用には、56 ページの観光の振興を結びつけてもらいたいし、88 ページ 多様な交流、90 ページ コミュニティの強化、92 ページ 情報の共有など、さまざまな施策と連携し、情報発信や地域コミュニケーションのハブとなるような存在になっていただきたい。</p> <p>④ (意見4) 56 ページ～57 ページ 観光の振興計画について将来像を具体的に描いてほしい。</p> <p>弥富市の立地は、名古屋市と桑名市の商業観光施設(ナガシマリゾート)の間にあり、充実した交通網は他の自治体と比較しても非常に強みとなっている。しかしながら、現状はその有効な立地を観光に活かしきれていないと認識する。基本計画の内容は単に既存事業を記載したにすぎず、今後10年の観光振興の将来像を何も描いていないことを危惧する。政府が訪日観光客を2014年から2018年で倍増させるなど観光立国化に積極的な施策をしているにも関わらず、弥富市の観光入込数が5年で6%程度の伸びしか目標としていないこともその活動の消極性をうかがわせる。市民の観光の振興に対する満足度を上げようという意欲が感じられない。それは、現時点では弥富市の観光をどうすべきか方針が定まってないと推察するので、まずは情報収集や意見交換に重点をおかれてはどうかと提言する。一方、観光施策である三花まつりなど、既存事業のひとつひとつは、参加するとその活動の有用性は認識するものの、全市一体というよりは、一部の市民、一部の関係者によってのみ支えられている印象がある。桜の開花時期をメインにした春まつりは、どの自治体でも桜まつりを開催しており、市外からの観光を呼び込むにはハードルが高い。そのため、三花まつりについては開催の負担を軽減し、仮に開催するとしても、春まつりは市民向けに特化したイベントとするなど、まつり</p>	<p>き続き行います。</p> <p>④ 本市では、三花まつりのイベントや地場産業である弥富金魚、三ツ又池公園の芝桜等、PR・情報発信を行い、市の魅力や知名度の向上を図っております。観光地としてのあり方、イベントの活用方法等、今後の参考とさせていただきます。</p>
--	---

<p>のあり方自体を見直すことも必要と思われる。既存事業のなかでは、ふるさとガイドツアーをより有効活用する方策として、歴史や史跡だけでなく、農業、商業、工業、さまざまなテーマの切り口を設けるなど、社会見学的な弥富を知るガイドツアーの拡充を今後、展開を図ってほしい。それには行政が一から制度を構築するのではなく上手く民間企業や商工会を活用するのも検討されたい。</p> <p>⑤ (意見5) 計画 50 ページ～55 ページ 農水産業の振興、商工業の振興について、弥富らしい産業のあり方を描いてほしい。</p> <p>計画にある現状分析や方向性は支持するが、より弥富らしい産業のあり方をより高い視座で掲げてもらいたい。弥富市は、早場米や水耕野菜の農業、金魚を主とする水産業、北部の商業施設、港湾エリアを中心とする工業の集積、交通網を活かした物流分野、加えて木工加工、仏具製造などの地場に根ざした伝統工芸があるなど、均等にバランスのとれた、またそれぞれに特徴ある産業が存在する。個々の産業ごとの単純な企業誘致や金融支援の振興策だけでなく、特徴ある地域産業同士、地元企業同士を相互にマッチングさせ、弥富市だからこそできる新たな複合産業・弥富産業モデル(仮称)を生み出す研究(外部研究機関との連携も視野)など、将来にわたって地域活性化、産業活性化に繋げるような大きな視点を計画に盛り込んでいただきたい。</p> <p>⑥ (意見6) 計画 70 ページ～71 ページ 公園緑地の充実について、既存施設の活用にも注力していただきたい。</p> <p>市内の各地の公園の整備を描いているが、現状、除草や剪定さえ行き届いていない公園が多くみうけられる。三つ又池公園の整備も重要とは思いますが、市民の身近な公園の管理手法について、市民参画や民間委託などより積極的な取り組みを求める。国内でも貴重な野鳥観察施設である弥富野鳥公園につい</p>	<p>⑤ 本市の農業の特徴として、南部に広がる優良農地を利用した稲作があります。これらについて、主要施策と概要にあるように、農地利用集積や農作業受委託の促進等により、耕作放棄地発生の予防に努めています。</p> <p>また、農地集積を行うことで、効率的な生産技術の導入や作付けの集団化、機械・施設の導入につながり、生産性向上や高品質化を目指しております。産業活性化に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。また、農水産業・商工業の振興については、JA・金魚組合・商工会等と連携して進めております。</p> <p>⑥ 都市公園の管理については、民間業者に公園管理委託し、定期的な除草、剪定を実施しています。今後は、指定管理者制度等を活用した、管理コストの軽減を検討していきます。愛知県が管理する弥富野鳥園の活用施策については、今後も県と調整しながら検討していきます。</p>
--	--

<p>での活用施策も、しっかり検討いただきたい。</p> <p>⑦ (意見7) 78ページ~79ページ 持続的な行財政運営において、福祉センター、スポーツセンター、各コミュニティセンターなどの公共施設の更新について 今後建替え更新時が順次やってくるが、必ずしも建替え前提でなく、本当に必要な施設・規模なのか、しっかり見極めて対応いただきたい。人口減を見越しての統合が必要であろうし、場合によっては、周辺の他の自治体との共有・共同運営なども検討できないか。今あるものを無くすという選択は、いろいろな反発も多いと思われるが、厳しい財源を考えると、あえて更新しないという選択はあって良いと思う。</p> <p>⑧ (意見8) 82ページ~83ページ 市民協働の推進について 市民団体同士の相互理解、および連携を図れるよう提言する。 計画83ページにて、地域活動団体やNPO等の育成、活動拠点の整備などがあげられているが、そもそも弥富市にどんな団体があるのか、一般市民が知る機会が少ないように思う。また団体に所属している市民は、その所属団体のことはわかるが、それ以外の団体のことはまったく知らないことも多々ある。その解消として、地域活動団体の相互意見交換、情報交換的な場、市内の登録市民団体を一同に介するよう「弥富市民団体サミット(仮称)」などの場を行政が提供し、市民団体同士の相互理解・親交を深め、団体同士の協働を推進することで市民協働の足がかりにはどうかと思う。手始めに、WEBサイト上に市内の各種団体を紹介するページやリンクがあってもよい。</p> <p>⑨ (意見9) 基本計画策定全体を通して。 弥富への愛、今よりも未来をよくしようという熱量はあるか。問いたい。各部署の担当の皆さんは、仕事だから仕</p>	<p>⑦ 本市は平成27年度に公共施設等総合管理計画を策定し、平成30年度と31年度で、公共施設再配置計画及び個別施設計画の策定を予定しています。ご意見にありますとおり、今後は、これらの計画に基づき、市民ニーズの変化に応じた公共施設の適正配置や広域的な利活用の検討など積極的に取り組みながら、公共施設マネジメントの推進に努めてまいります。</p> <p>⑧ 市内で活動している市民団体が相互に理解し、連携が図れる仕組みづくりについてのご意見につきましては、昨年度初めて、地域づくり補助金交付団体を対象に活動報告会を開催しました。目的は、他の団体の活動の内容を知ること自分たちの活動の気づきに役立ててもらうことや、他団体の存在を知ること新たな連携等に結び付けることです。この報告会を、今後も引き続き開催することで、各市民団体の連携・協力、相互理解がより一層深まるものと考えています。 また、現在検討しています地域活動団体等の活動拠点施設等を核として、団体の交流を推進してまいります。</p> <p>⑨ 本市では、市民対象に「まちづくり出前講座」を実施し、誰にでもまちづくりに関する学習機会の提供を図り、市民のまちづくり意識と知識の向上に努めています。</p>
--	--

	<p>方なく策定した。法律で決まっているから。そういう手順だから。上司に言われて。という消極的な姿勢で計画を描いていないだろうか。基本計画全体について、行政として手堅く間違いない真面目な計画という印象を受ける。そうした姿勢はもちろん大切であるが、未来の弥富市にどんな夢があるか、楽しそう、面白そう、いい街になりそうだ。と思わせるような、行政の弥富に対する地元愛や熱量を感じられる計画であってほしい。それには、ふだんから職員の皆さんには弥富が好きであってほしい、弥富を支える自身の仕事に自信をもっていたきたい。市民から感謝される存在であることに気づいてほしい。そのために、市民と職員が前向きに市政や行政について気軽に語り合える場の醸成をお願いしたい。さらに職員同士でもお互いの仕事の相互理解を図るよう、組織の壁をこえて、年齢や役職の差をこえて、弥富をいい街にするための意見交換会など、行政内の風通しをよくする仕組みも構築いただけると良いと思う。</p>	<p>また、この講座は、市民と職員が共に考え、市政に対する理解や関心を深めることも目的としております。また、行政内の風通しを良くする仕組み作りについてですが、本市では、常日頃から業務を改善し、市民サービスの向上と事務の効率化を図るため、平成 29 年度より業務改善運動（通称 G-1 グランプリ）を開始しております。業務改善運動の目的は、4 つあり、その 1 つがチームでの取組を通じて、職場内のコミュニケーションの向上であります。また、業務改善運動に参加できる要件は、課の単位や課内のグループの単位、さらには、部署を超えた有志のグループなどです。昨年度は、若手職員有志のチームを含む 15 チームの参加があり、その若手職員有志チームが、最優秀賞に輝いて成果を上げております。</p>
7	<p>① 64 ページ、65 ページ（道路・交通網の充実）</p> <p>本件において、物流拠点の発達による現状の渋滞等の課題や主要施策として改善を図る方向性は読み取れたが、より具体的にどこをどのように改善して解決していくのか、基本計画においてももう一步記載いただきたい。物流の発展を図っていく上で、交通網が計画的かつ速やかに充足されることは両輪で同時に必要な重要事項である。輸出入総トン数日本一と言われている名古屋港港湾地区への出入りする道路が少な過ぎてその中で 2017 年位から尾張中央道、操出交差点を起点として南進に渋滞する事が多くなったようで、知人のドライバーたちは港湾地区効率化を UP する為にも管轄警察署にも相談するも、なかなか進まないようである。この先港湾地区出入りする道路がスムーズに通行出来るようになればもっと企業が港湾地区に進出して弥富市に潤いをもたらしてくれるのではないかとも思っている。こうい</p>	<p>① 施策目標 2 の道路・交通網の充実の施策の中で取り組んでまいります。</p>

った物流をスムーズにする事にもっと
弥富市には具体的な整備方針を出して
ほしい

② 基本計画全体について

基本構想 6 ページでは、基本計画は前期 5 年、後期 5 年と分ける構成が記載されているが、基本計画（素案）を見ると、前期／後期の記載がなく、基本構想と同じ 10 年を対象にして記載しているように読める。成果指標の目標値だけは 2023 と 2028 の K P I を設定し、前期の終わりで進捗が確認できるようになって良いが、その他の「目指すべきまちの姿」「市民等との協働による取り組み」「主要施策」「市民満足度」など、それぞれの事項について、基本構想を受けて前期 5 年についてまずどうするのか記載が必要なのではない。10 年を対象にして目指すべき姿などを書いてしまっているため、基本構想レベルでぼやとしていて具体性に欠ける。5 年を見越して構想を具体的に落とし形形で示していただきたい。各ページの「市民満足度」「成果指標」で目標数値が書かれているものもあれば、右肩上がりの矢印や横ばいの矢印が使われているものもあるが、矢印のような定性的な記号表現ではなく、原則すべてを定量的に目標「値」で設定いただきたい。根拠ある数値目標がないと効果的な K P I のチェックができない。

③ 56 ページ 観光の振興

春祭りは 2 年以上前には市民のうち希望する団体が手を上げてステージイベントに登場することができたが、2 年前から市の一方的な決定で市から声のかかった団体のみがステージに参加できるようになった。参加できなくなった多くの市民団体は反発しており、市の姿勢は当時非常に遺憾であった。春祭りの実施を中心に据え、市民参加を推していますが、こういったことが今後起こらぬよう商工観光課の市民との関わりかたや姿勢、進め方に改革を希望します。秘書企画課との業務分担の住

② この基本計画には、前期/後期の記載がないとのご意見ですが、基本構想の 10 年との紛らわしさを防ぐために、前期という記載を追記します。

また、「成果指標」以外の項目で、5 年後について具体的な記載がないとのご意見ですが、当該基本計画の内容は、基本構想 10 年の前半 5 年について記載しておりますので、後半 5 年については、5 年後に策定する後期基本計画で記載することになります。成果指標は、5 年と 10 年の目標設定が、数値等で明確かつ、客観的に表現できるため、基本構想の 10 年に合わせて目標設定をしました。

「施策目標に対する市民満足度」欄を数値目標とせず、めざす方向性として矢印表記としたことについては、行政は、市民満足度を 100%にすることが、理想であるが、現実的には難しいことから、仮に数値目標を詳細に設定したとしても、その数値目標そのものあまり意味がないと判断したためです。

また、一部の「成果指標」欄に矢印表記をしているところは、原則、パーセントで指標を設定し、その設定の根拠が明確でないものに限り矢印表記としています。

③ 春まつりは、春まつり実行委員会を中心として、イベントのマンネリ化を招かないように様々な方向からステージ構成を考えております。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。

<p>み分けも再整理してはいかがか。</p> <p>④ 56 ページ 観光の振興 主要施策に記載のある「今まで通りの祭りやイベントの維持継続を行い、すでにある資源のPRをする」という内容で、「目指すべきまちの姿」にあるような多くの人を訪れる街になるとは思えない。現状イベントは満足度が低く(8.6%)、維持とPRだけではどうにもならない。観光やイベント開催、PRで成功している事例の研究や、弥富市の印象・魅力のマーケティング調査をして、現行イベントの改善や新規施策をこの基本計画でもっと具体的に真剣に検討してほしい。歴史民俗資料館はぶんちゃんて人気を起し、愛西市の佐屋高校が文鳥プロジェクトに取り組んで文鳥を大切にしている。文鳥農家は減っているが、弥富市の商工観光は文鳥に触れないのでしょうか。</p> <p>⑤ 92 ページ 情報の共有 基本構想 9 ページでは(6)高度情報化の進展としてICTの進化について触れられているが、その後の基本構想や基本計画においてICTに対する姿勢は消極的に感じる。農業のICT化、教育分野の情報化(37 ページ)、そして92 ページの情報共有といった一部にしか考慮がない。</p> <p>⑥ 54 ページ、55 ページ(商工業の振興) 現状・課題で商工業の推移が掲載されており、目指すべきまちの姿では「雇用拡大と好況が続く」とあるので、55 ページの成果指標はそのとおりに商工業の雇用者数が右肩上がりに今後推移し、公共と言える販売出荷額の目標値を設定して改革を進めていくのではないのか。融資、補助金の件数だけが目標として管理されると目指すべきまちの姿が達成するのでしょうか。</p> <p>⑦ 50 ページ(農水産業の振興) 弥富市に移住してきた身であるが、住民登録の際に金魚の買い方、飼い方の指南があったりすると、金魚に興味を</p>	<p>④ 春まつりにおいて、イベント改善のために、昨年度からアンケート調査を行っております。また、文鳥については、生産農家が減少しているため、本計画には触れておりませんが、ご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>⑤ 本市のような小規模自治体では、職員体制にも制限があり、全施策ICTの活用を一律に行うことは、困難であると考えています。そのため、事案に取り組む都度、関係課が、専門のコンサルタントに相談しながらICTの活用を行っていくこととなります。</p> <p>⑥ 成果指標について商工業の雇用者数や販売出荷額を目標値にというご意見ですが、毎年統計調査により数値が算出されないものであるため、市の施策からの数値を目標としております。</p> <p>⑦ 今後の金魚のPR方法の参考とさせていただきます。また、本市へ転入される方への各種案内につきまして、ご意見をいただきました。自</p>
--	--

<p>持って飼う市民が増えるのではないか。金魚の街という認識はあるが、知識を得る場もなく、店は見かけるがなかなか飼うきっかけがなかった。市民になると金魚を飼うという特色が実現できたら話題にもなると思う。地域コミュニティへの参加やNPOのリスト、地域の祭りへの参加方法、地域防災会や消防団といった案内も移住の際に案内がなく、独身者や賃貸物件在住者は特に、地域との関わりに意欲はあってもその参加方法がわからないと思う。移住者への案内を強化してほしい。</p>	<p>主防災会への加入につきましては、市ホームページにも掲載いたしましたが、お住まいの自主防災会がご不明の際は、市が仲介してご紹介します。消防団につきましては、市行事での団員募集活動や広報やとみ、市ホームページ等で加入促進を行っておりますので、こちらを引き続き、継続してまいりたいと考えております。</p> <p>また、秘書企画課では、市民向けに「みなさん 自治会・町内会に加入しましょう！」というチラシを作成し、窓口等で配布し、自治会等への加入について周知を行っています。引き続き、本市への転入者に対して、新生活にお困りにならないように、積極的に生活情報等の提供に努めます。</p>
---	--

意見募集時の公表資料

第2次弥富市総合計画基本計画（案）

閲覧場所及び問い合わせ先

総務部秘書企画課 企画政策グループ 電話 0567-65-1111 内線 224